東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

第１回種子島ツーリズムセミナー
2014/11/27（木）13:30 〜

「ニューツーリズム」を考慮に入れた観光振興による経済発展に向けて

東京大学「プラチナ社会」総括寄付講座
中井美和

本日の発表内容

1. 目標と背景

2. プレ調査の結果報告

3. 今後の調査計画

4. 今後について ーディスカッションー

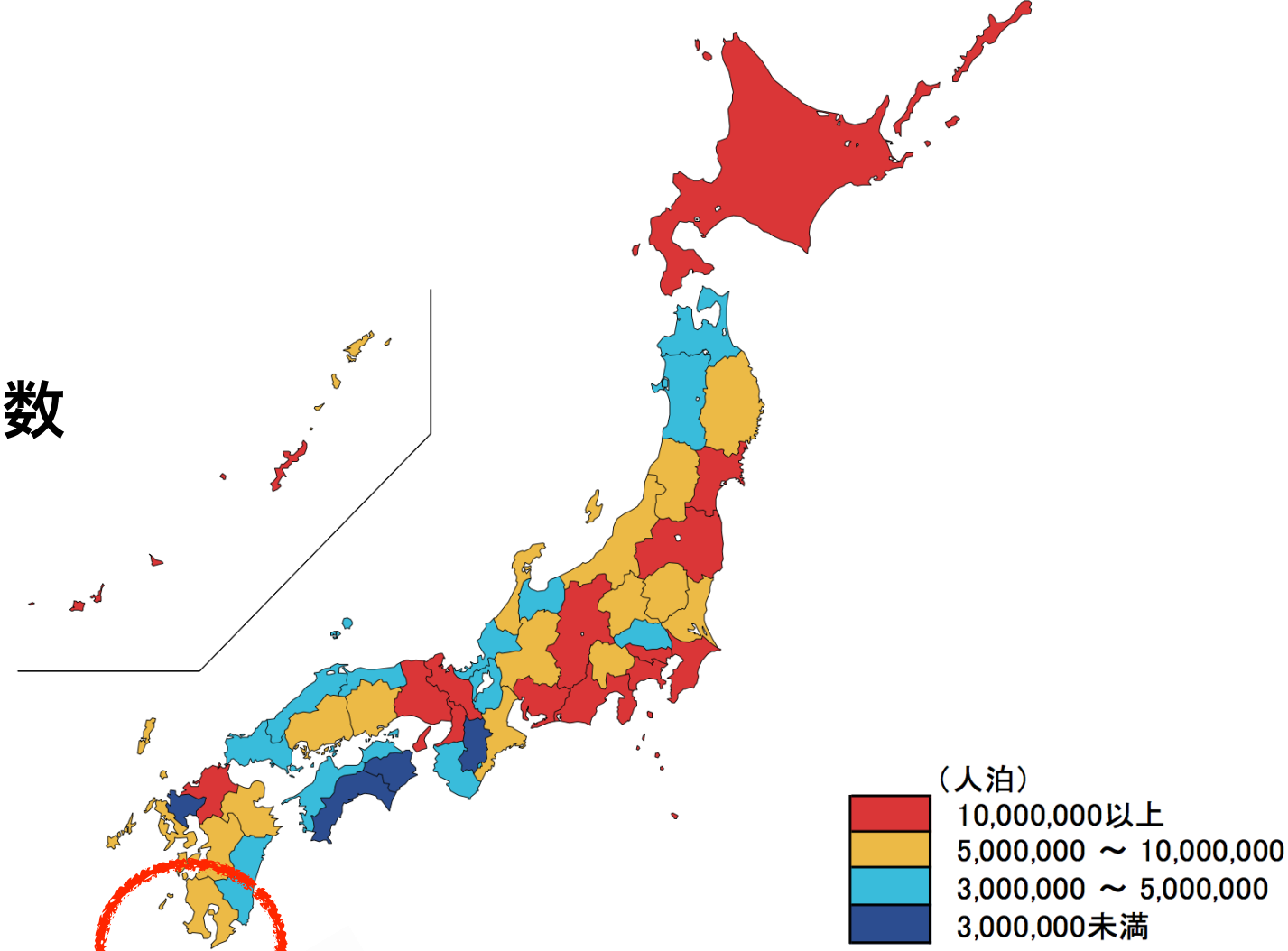
1. 目標と背景

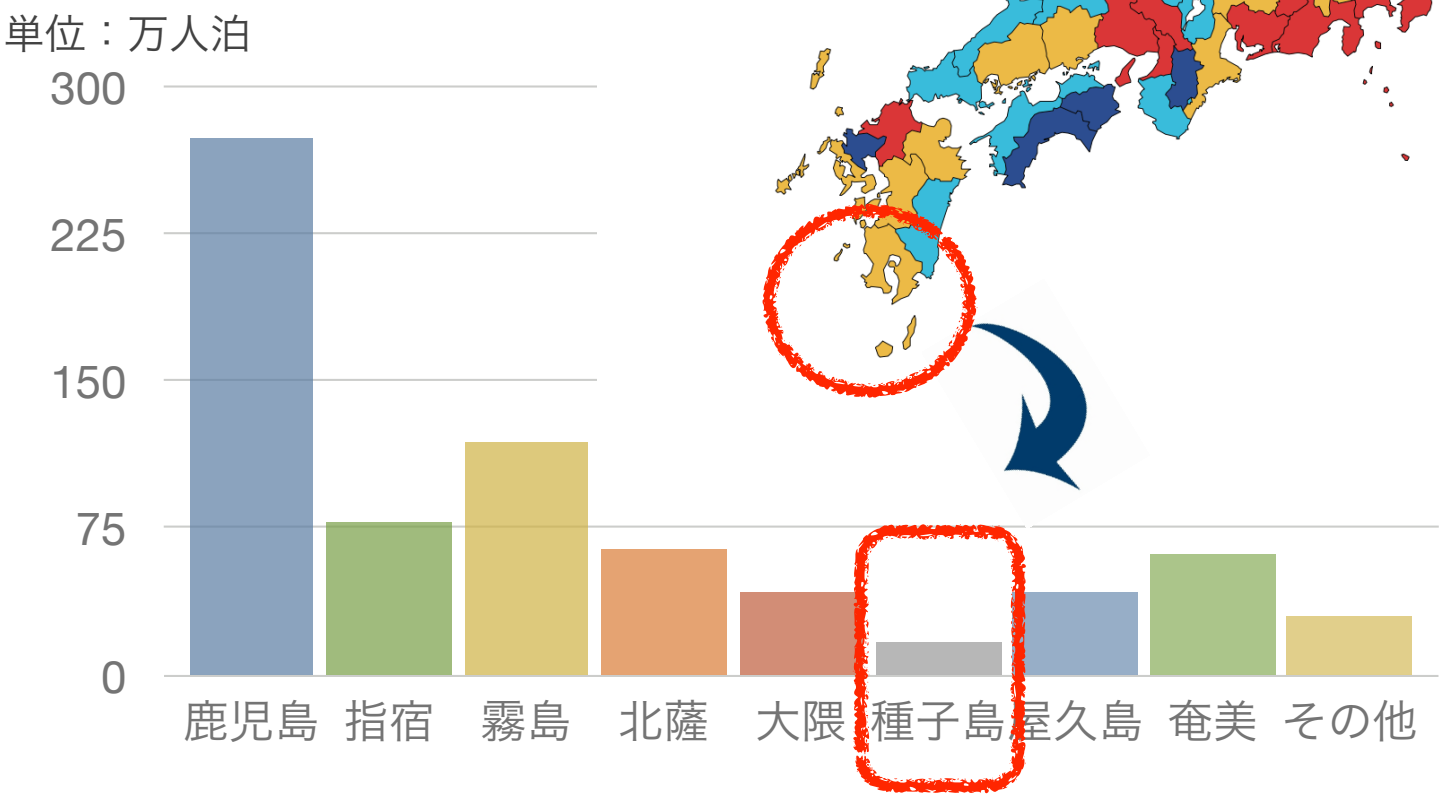
現状確認

平成25年度宿泊者数

都道府県別 ➡

鹿児島県地区別⬇

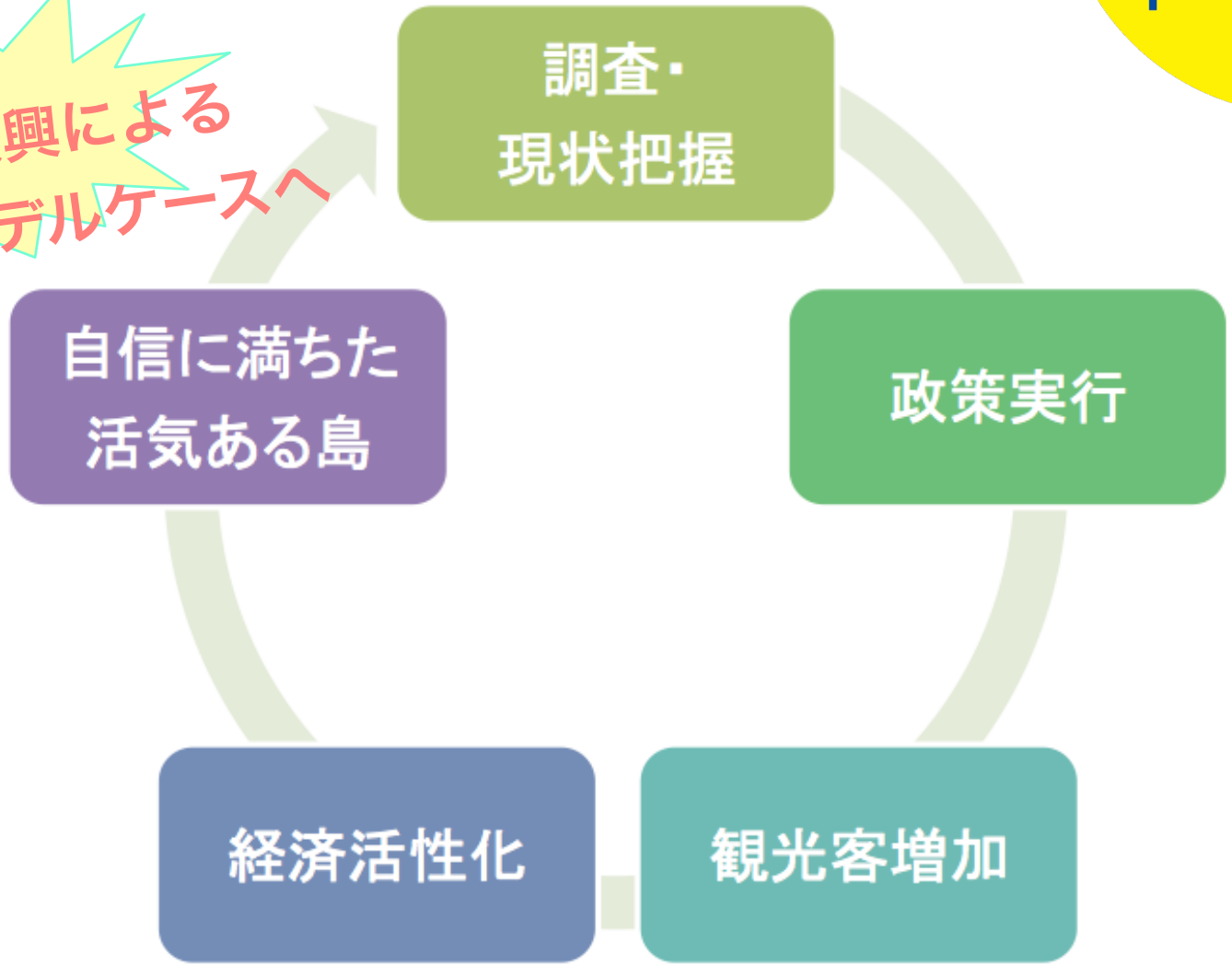




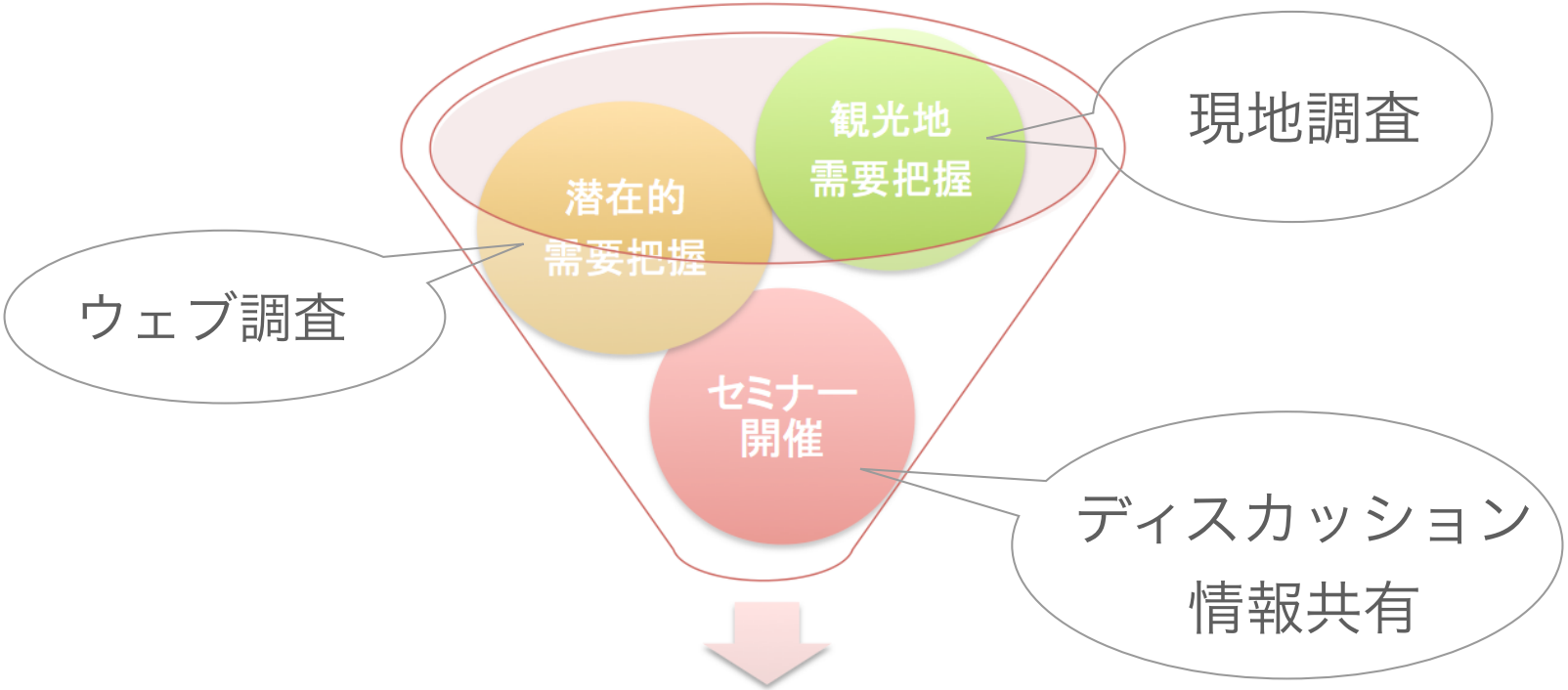
島のあらゆる資源を結集して「観光の島」種子島へ

自然と共生する
スマート
エコアイランド
種子島

離島観光振興による
経済発展のモデルケースへ



目標達成に向けて



ツーリズム振興へのアクション

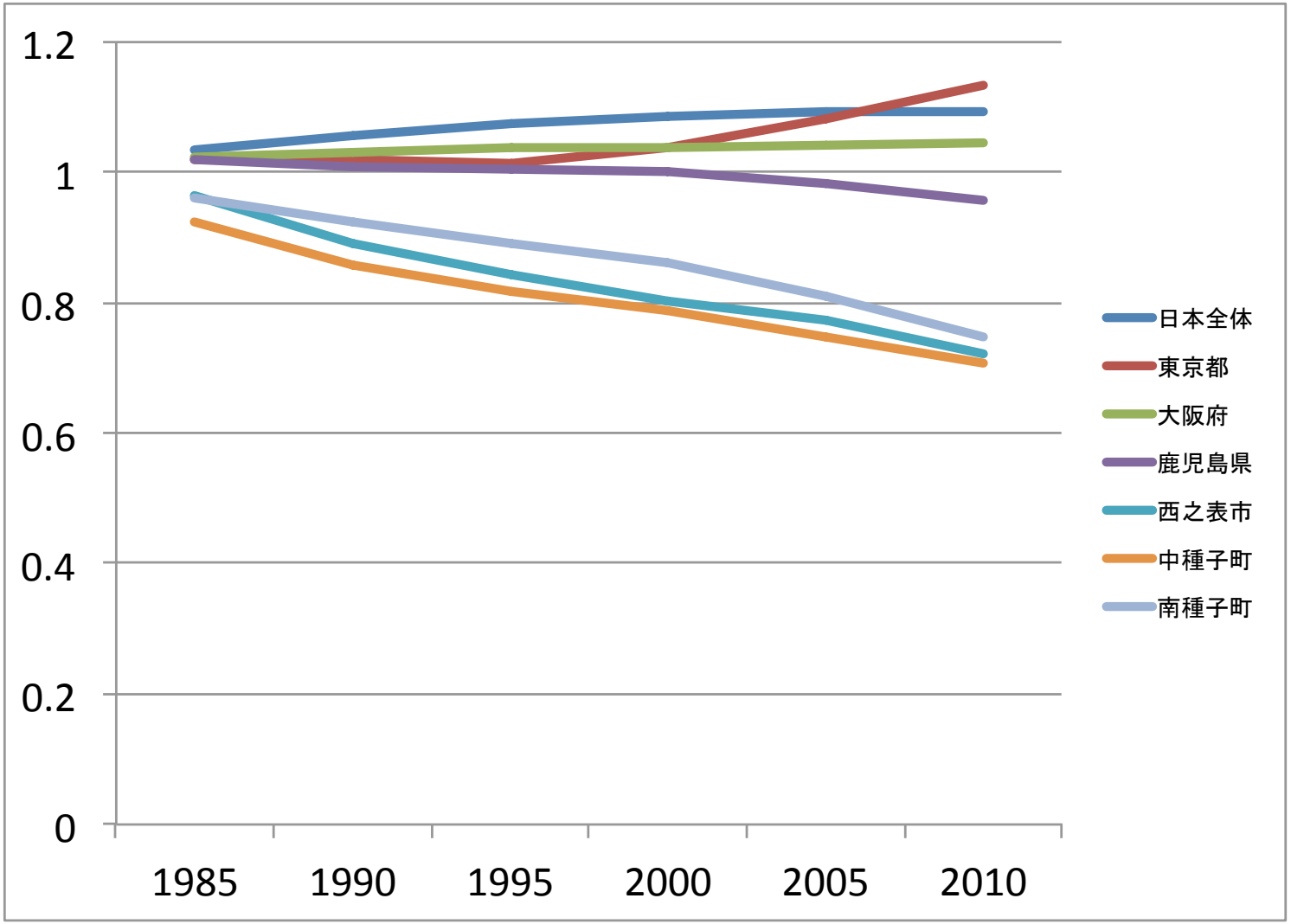
プロモーションの再検討

新たな観光プランの創出

教育と観光の組み合わせ

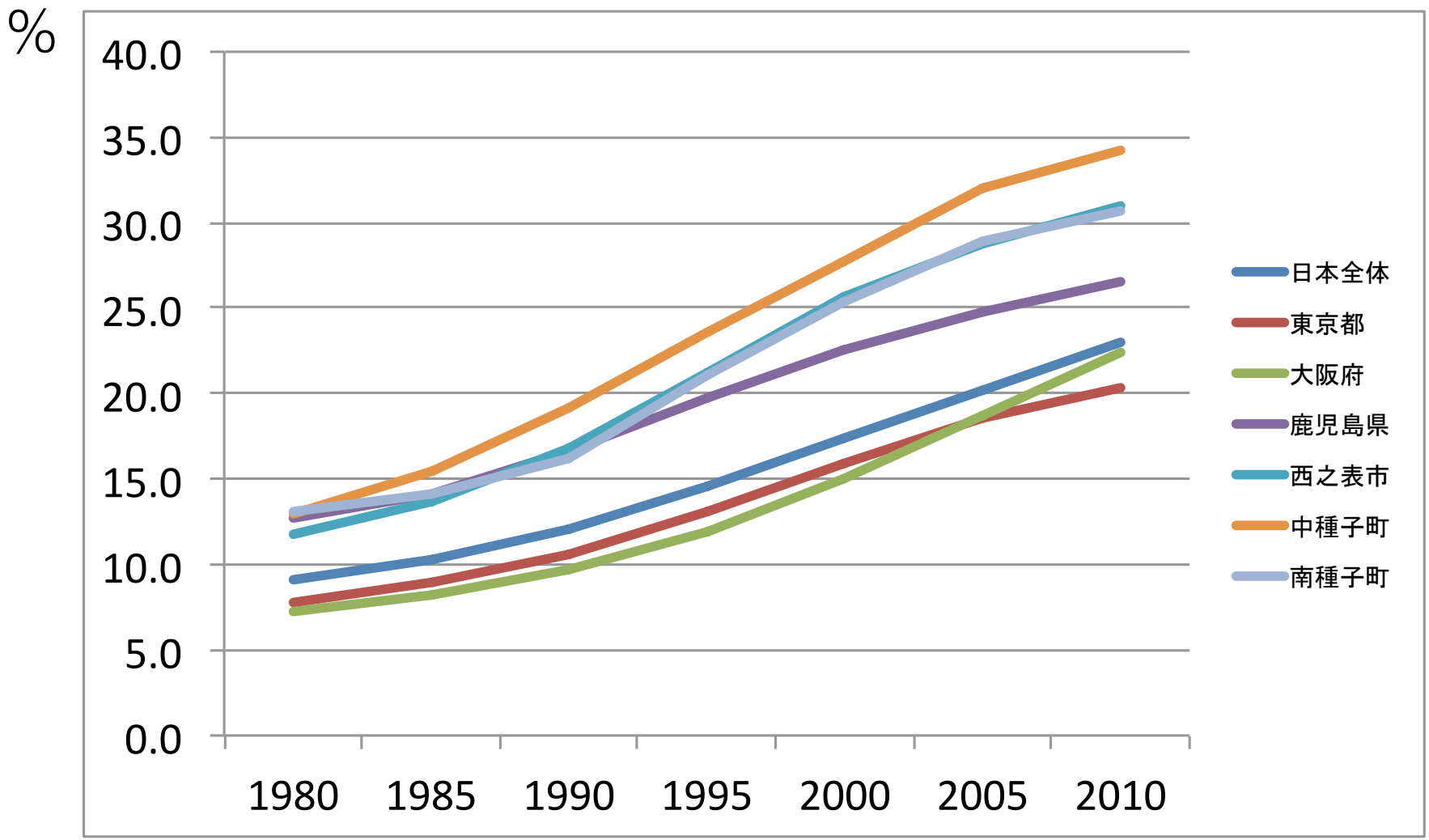
経済効果の算出

背景１：人口減少が著しい種子島



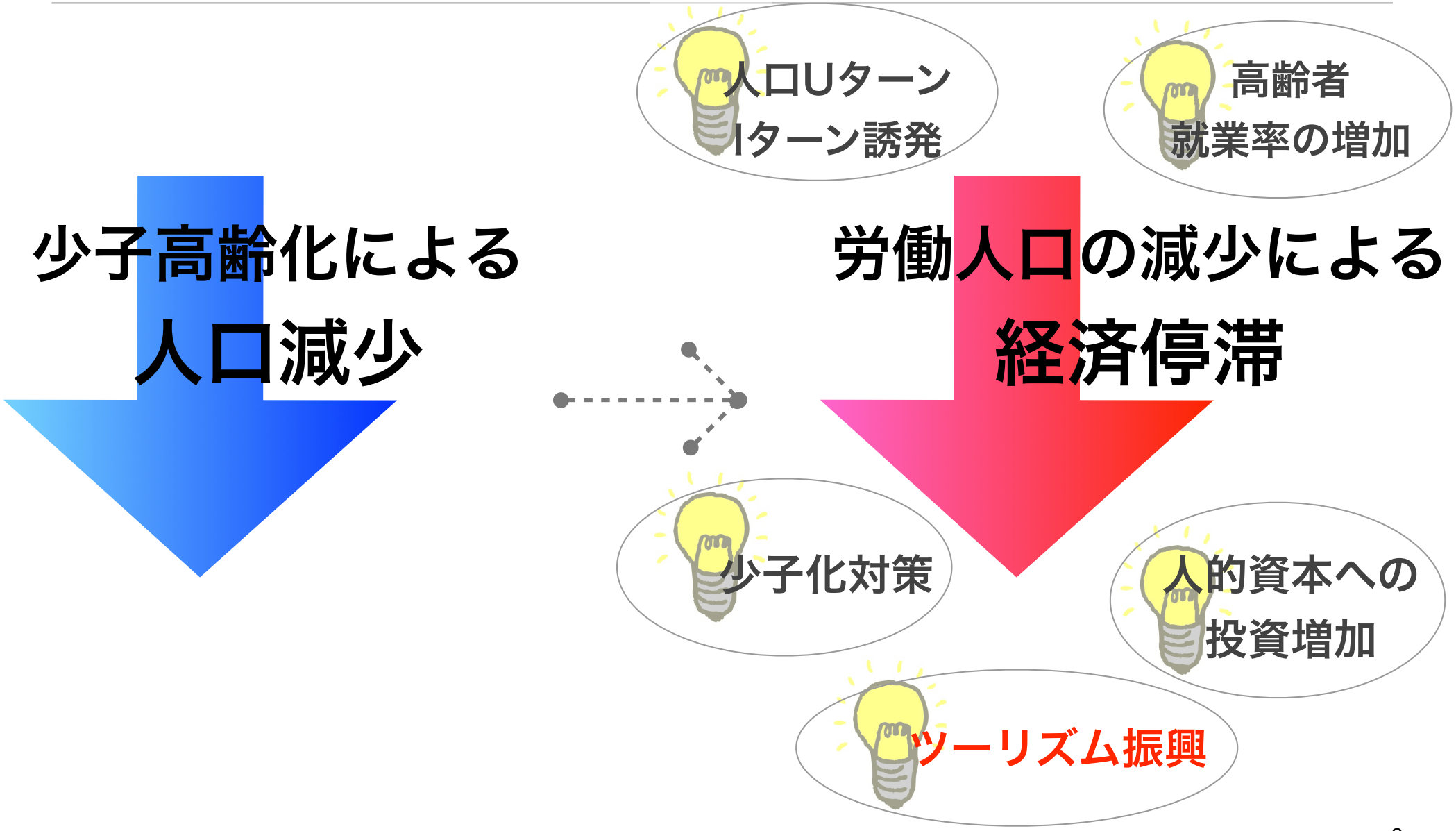
e-Statよりダウンロード可能な「年齢、男女別人口及び人口性比ー全国、東京都、大阪府、鹿児島県」より、1980年を基準年とし、グラフを作成

背景２：高齢化も顕著な種子島



e-Statよりダウンロード可能な「年齢、男女別人口及び人口性比
ー全国、東京都、大阪府、鹿児島県」よりグラフを作成

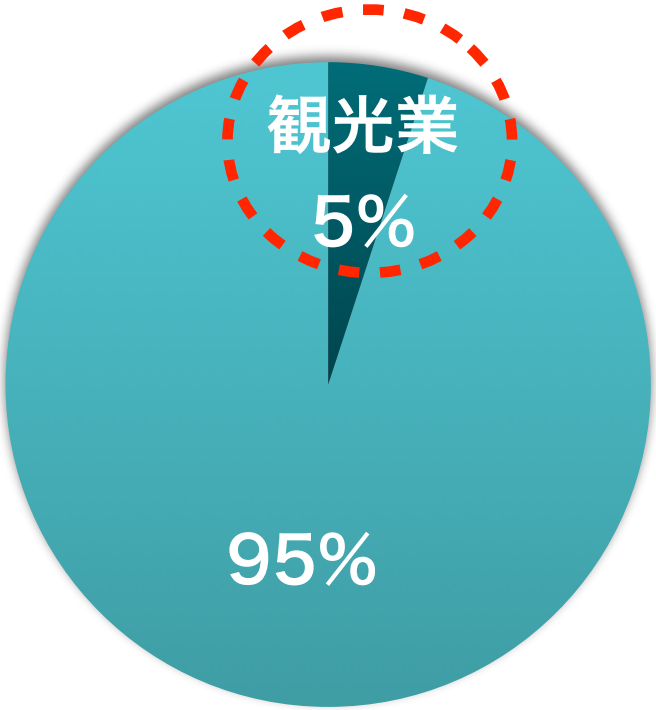
人口減少による影響と対策



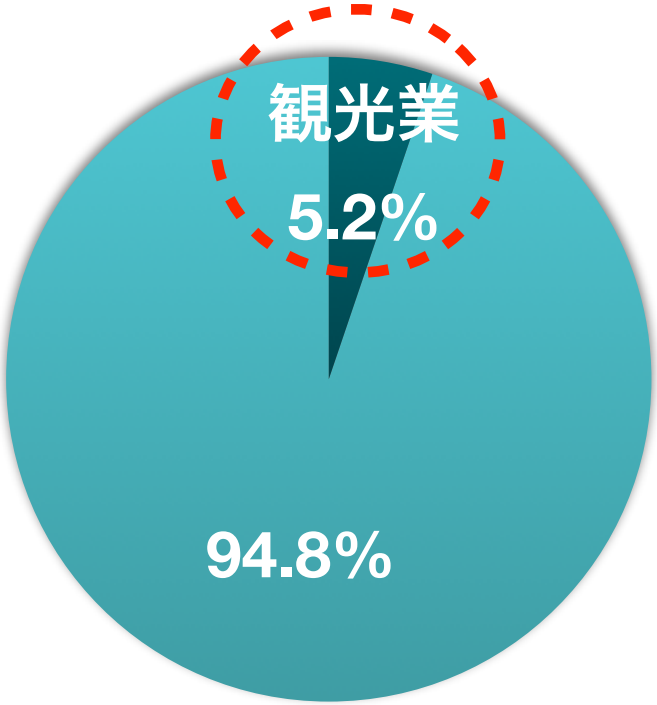
観光振興による経済発展を検討する意義

1. 経済効果が高い

付加価値誘発効果
(2012)



生産波及効果
(2012)



出典：観光庁（2014）

観光振興による経済発展を検討する意義

年間消費額の比較

定住人口1人　＝　外国人旅行者11人　＝　宿泊を伴う国内旅行者26人

参照：観光庁（2014）

観光振興による経済発展を検討する意義

2. 政府による積極的な取り組み

平成１５年	１月	小泉純一郎総理（当時）が「観光立国懇談会」を主宰
	４月	**ビジット・ジャパン（VJ）事業開始**
平成１８年	１２月	観光立国推進基本法が成立
平成１９年	６月	観光立国推進基本計画（旧）を閣議決定
平成２０年	１０月	観光庁設置
平成２４年	３月	観光立国推進基本計画（新）を閣議決定
平成２５年	１月	「日本再生に向けた緊急経済対策」を閣議決定
		第１回国土交通省観光立国推進本部を開催
	３月	第１回観光立国推進閣僚会議を開催
	４月	第２回国土交通省観光立国推進本部を開催
		（「国土交通省観光立国推進本部とりまとめ」を公表）
	６月	第２回観光立国推進閣僚会議を開催
		（「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」をとりまとめ）
		「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」を閣議決定
平成２６年	６月	観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014 ―「**訪日外国人2000万人時代**」に向けて―を決定

平成18年に約520万人だった訪日外国人が同年1000万人を突破

参照：観光庁ホームページ
http://www.mlit.go.jp/kankocho/kankorikkoku/index.html

1

新たなクリエイティブは「神山モデル」が作り出す

奇跡のNPO、グリーンバレーの創造的軌跡（3）

篠原　匡

2012年7月13日（金）

>>バックナンバー

1／5ページ

おすすめ　シェア 1,895　共有 5　ブックマーク 77　ツイート 143

徳島市内から40～50分のところに、神山町（徳島県名西郡）という町がある。人口は6300人ほど。高齢化率は46%に達する山間部の過疎の町だ。ところが、今年になって、静かな町に異変が起きた。転入者が転出者を上回ったのだ。しかも、神山町に拠点を設ける企業も増えている。なぜ神山町に移住者や企業が集まり始めたのだろうか。

実は、その背景には神山町に拠点を置くNPO法人グリーンバレーの存在がある。彼らが生み出す場の雰囲気がクリエイティブな外部の人材を呼び寄せ、その人材が新たな場を作るという好循環を生み出した。1人の天才が生み出すクリエイティビティがある一方で、良質なコミュニティが生み出す革新――。その意味するものは何か。（敬称略）

（前回から読む）

（前々回から読む）

2

ERES 公開フォーラム 2014

2020年以降の東京と日本

～「大都市vs.地方」の二項対立を超えて～

日時：2014年11月4日（火）14:00-17:00（開場 13:30）

会場：東京大学 伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール（本郷キャンパス）　MAP

定員：400名（事前申込制、入場無料）

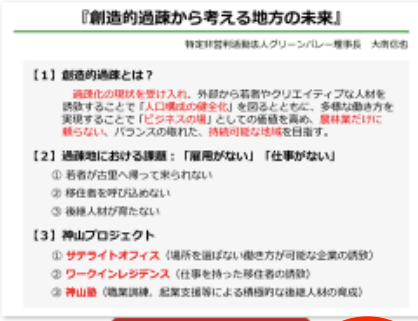
主催：東京大学公共政策大学院

16:10-16:40　**リレー講演③**

『創造的過疎から考える地方の未来』

特定非営利活動法人グリーンバレー理事長　大南信也氏

16:40-17:00　**登壇者によるディスカッション**



『創造的過疎から考える地方の未来』

特定非営利活動法人グリーンバレー理事長　大南信也

【1】創造的過疎とは？

過疎化の現状を受け入れ、外部から若者やクリエイティブな人材を誘致することで「人口構成の健全化」を図るとともに、多様な働き方を実現することで「ビジネスの場」としての価値を高め、観光業だけに頼らない、バランスの取れた、持続可能な地域を目指す。

【2】過疎地における課題：「雇用がない」「仕事がない」

① 若者が古里へ帰って来られない

② 移住者を呼び込めない

③ 後継人材が育たない

【3】神山プロジェクト

① サテライトオフィス（場所を選ばない働き方が可能な企業の誘致）

② ワークインレジデンス（仕事を持った移住者の誘致）

③ 神山塾（職業訓練、起業支援等による積極的な後継人材の育成）

PDF: 4.38MB

3

in Kamiyama
イン神山

四国徳島　神山町　くらし

サイト内を検索

神山写真帖　神山日記帳　神山でアート　神山で暮らす　イベントあれこれ

お知らせ　8月27日、総理大臣官邸で開催された第２回まち・ひと・しごと創生に関する有識者懇談会に大南信也理事長が出席しました。

神山写真帖

過去100年分の写真を
各家庭から集めた大写真帖
今日も成長中

神山日記帳

四国・神山町に暮らす人々や、
NPO グリーンバレーの
日々のお話

神山でアート

アーティスト・イン・レジデンス
の情報から、
アートの滞在情報まで

神山で暮らす

田舎暮らしできます。
家や土地、
貸します・売ります

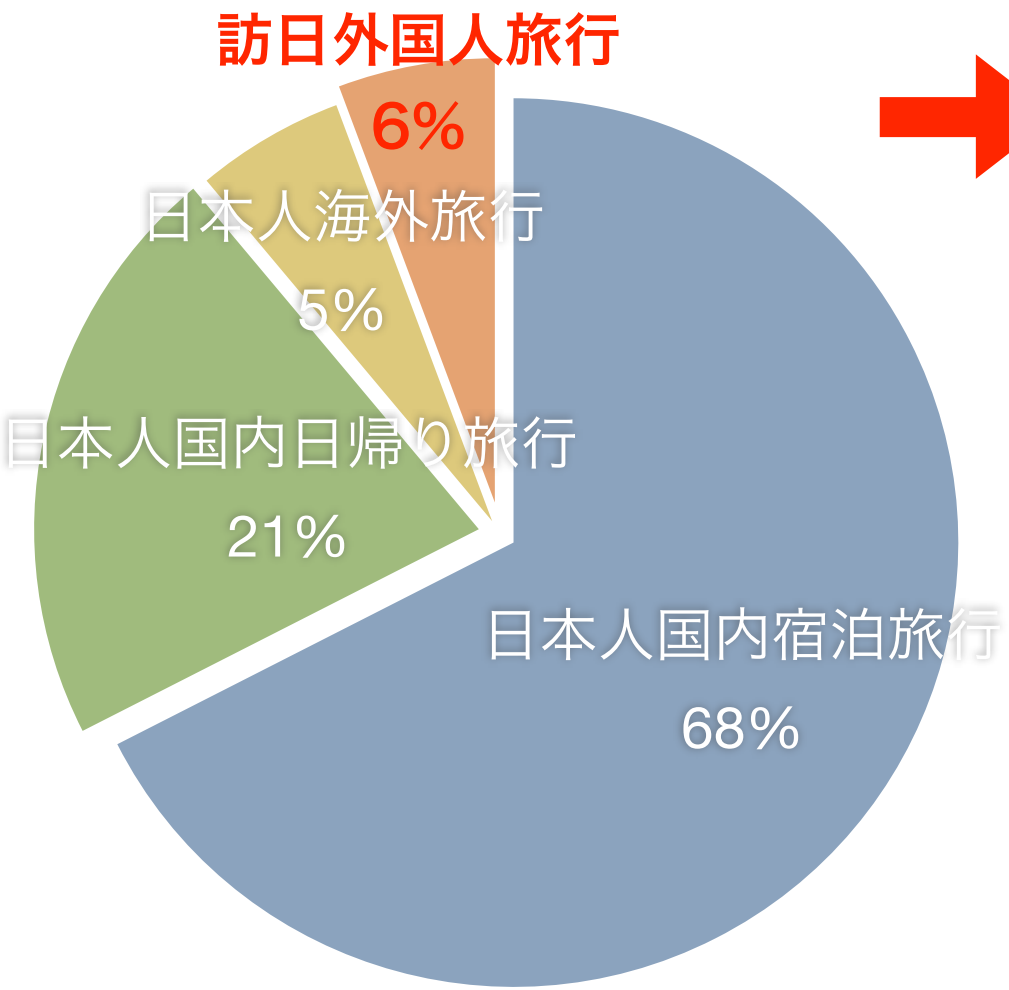
イベントあれこれ

おすすめイベントなど、
神山、および神山につながる
さまざまな情報を紹介

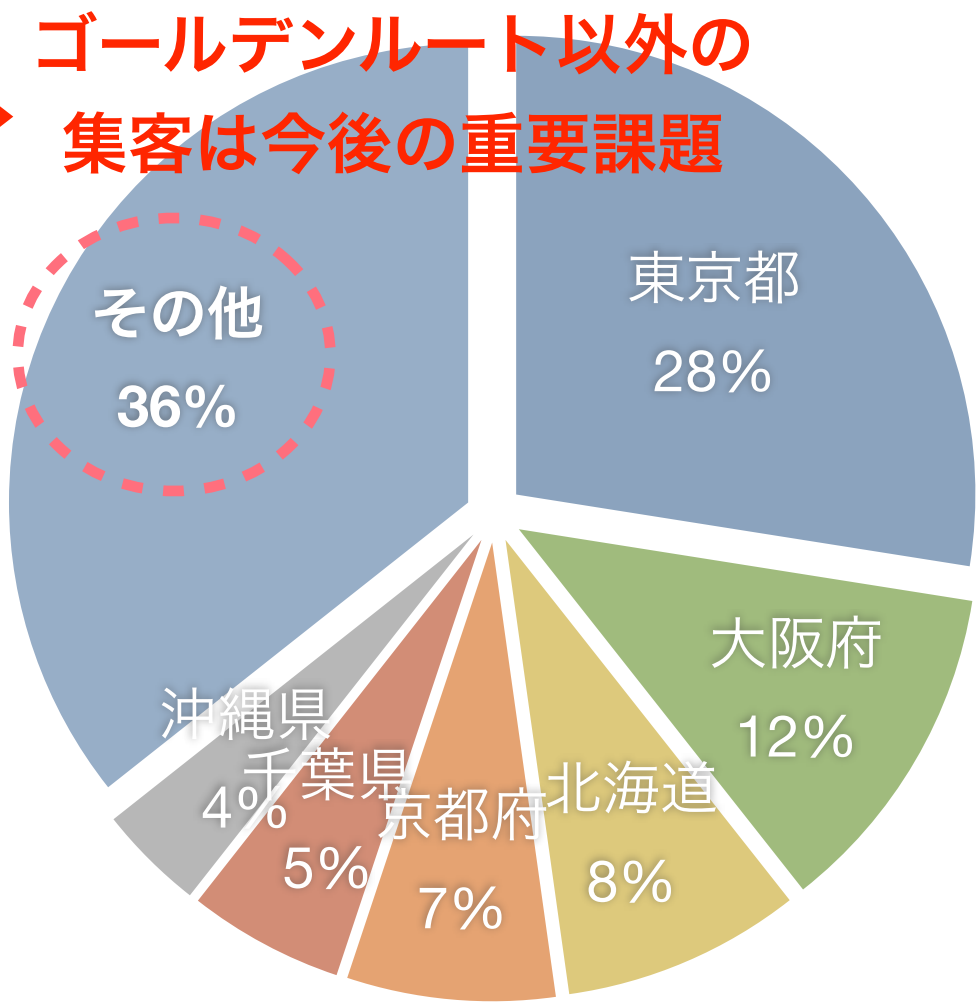
徳島県名西郡神山町のケース

1．2012/7/23　日経ビジネス掲載分

国内における旅行消費額
（2012年度）



外国人延べ宿泊者数
（2013年度）



参照：観光庁（2014）

ニューツーリズムによる

観光振興による経済発展を検討する意義

3. 観光客の選好の多様化・ニューツーリズムへの注目

- ☑ 観光客の選好の多様化
- ☑ 個人旅行の増加

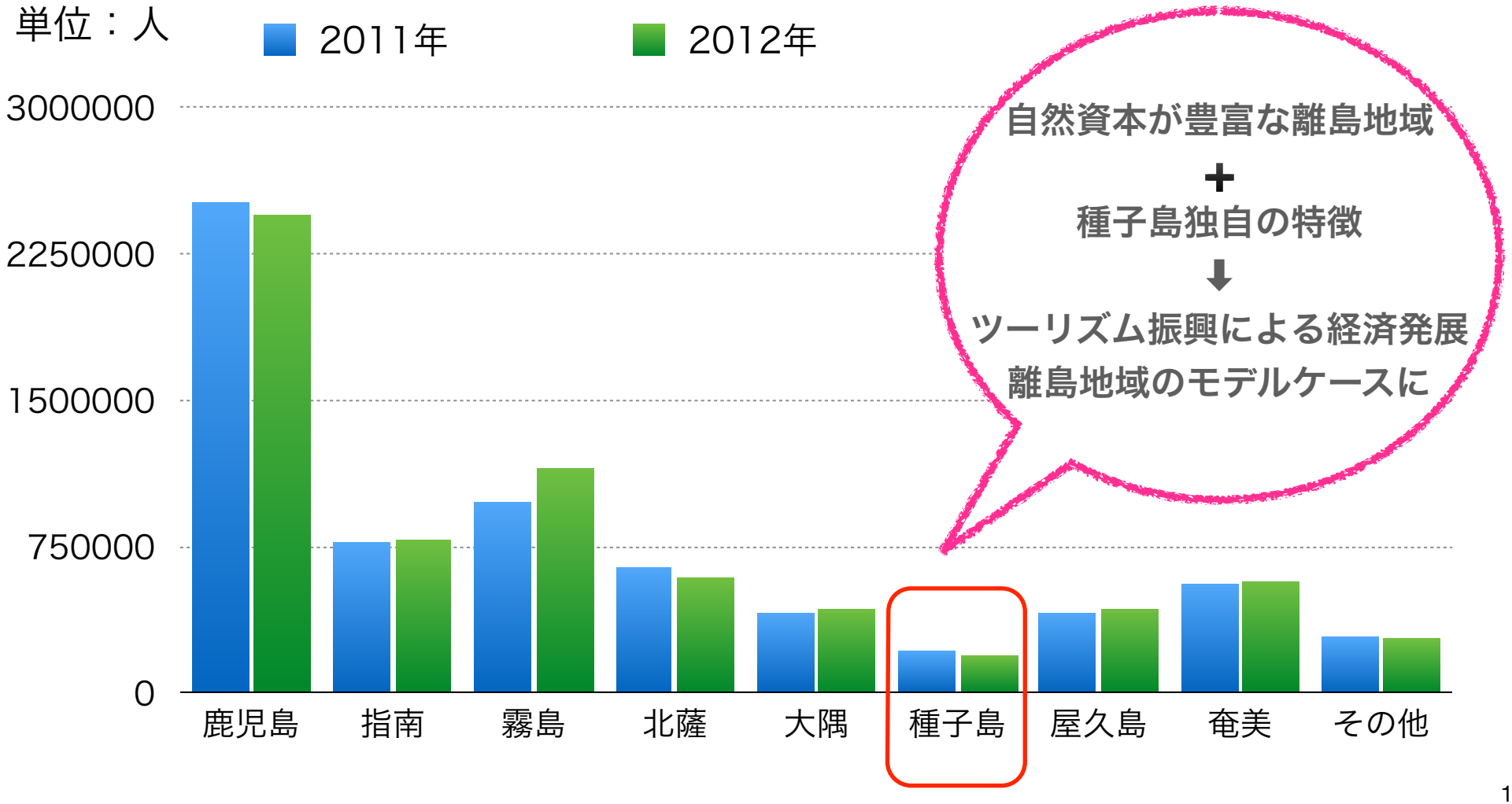
  鹿児島県でも団体旅行客⬇

  ただし、**教育旅行**は増加中
- ☑ 体験型旅行への関心の高まり
- ☑ ニューツーリズム振興の政府の取り組み

種子島が保有する特徴にマッチ！

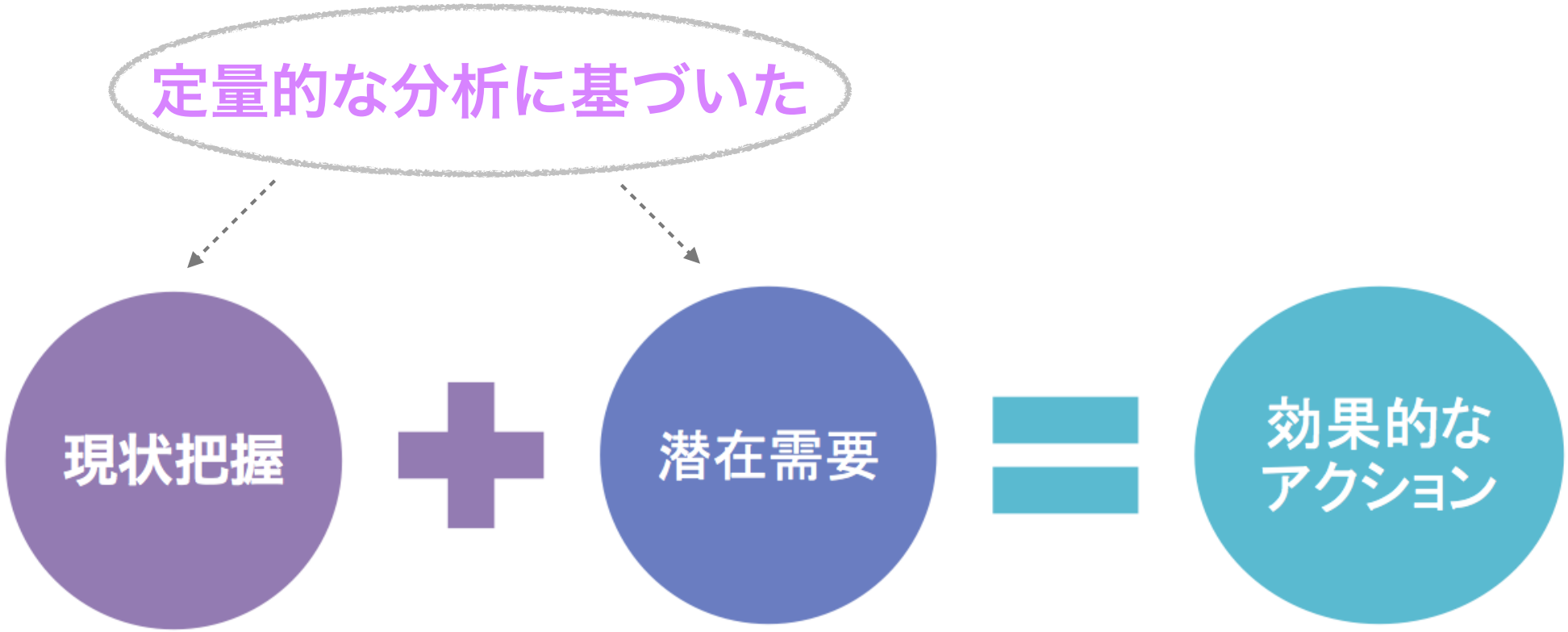
課題

観光客の伸び悩み・観光客の選好の多様化の把握不足



課題

- これまでの活動や、貴重な経験則に加えて、、、



2. プレ調査の結果報告

調査に関して

- 実施日：10月7日（火）午後2便、10月8日（水）全便

静止気象衛星
「ひまわり8号」
打ち上げ

- 実施場所：種子島空港　搭乗待合室

- 調査対象：観光客（出張で来島した場合でも、少しでも観光をした人であれば調査対象とした）

- 調査方法：対面調査 及び 郵送調査

郵送調査の概要

- 対面調査終了後に、任意で郵送調査用アンケート調査票及び返信用封筒を渡した

- 対面調査と異なり、より詳細な情報を質問
  例：個人属性、旅行費用、来島した感想など

- 返信率　約52%（14名／27名）

結果は近日中に公開予定です

3. 調査計画

調査計画1.
各観光地の需要推計 ー現地調査ー

プレ調査の
拡大版

1. **訪問行動の情報収集・分析**
   - ☞ **各観光地の需要・価値の推計**
   - ☞ どんなアクティビティに参加したか、特産品は食べたか、おみやげは何を、どれくらい購入したか、等の詳細な行動の調査
   - ☞ グリーンツーリズムの認知度、潜在的需要の把握
2. **観光客の個人属性の調査**
   - ☞ ただ単にどのような人が来島しているかという情報として活用するだけでなく、各観光地への需要を説明する要因として活用可能

✤ **調査地**：港、空港

✤ **調査時期**：夏季、イベント開催時（例：ロケット打ち上げ、マラソン大会など）

調査計画2.

各観光地の潜在需要推計 ーウェブ調査ー

- 調査対象：これまで種子島を訪れたことがない人々
- 調査内容

  1.種子島への観光に対する支払い意思額の推計

  いくらくらいなら支払ってもよいか

  2. 各観光地、アクティビティへの潜在的需要・価値の推計

  3. 潜在的需要の要因を個人属性で説明

例

山岳アクティビティ

40代、豊かな自然が好き
家族旅行、所得は高め
割合は10%

ダイビング

30代〜40代、旅行頻度高め
所得は高い、割合は30%

サーフィン

20代〜30代、旅行頻度高め
男性が多い、所得の特徴なし
割合は50%

文化系アクティビティ

30代〜40代、女子旅
所得は一般的、割合は10%

調査計画2.
各観光地の潜在需要推計 ーウェブ調査ー

- 調査内容
  4. 都市圏への直行便就航など種子島へのアクセス改善が需要に与える影響の推計
  5. **現存していない観光プランの需要推計**

Summer School

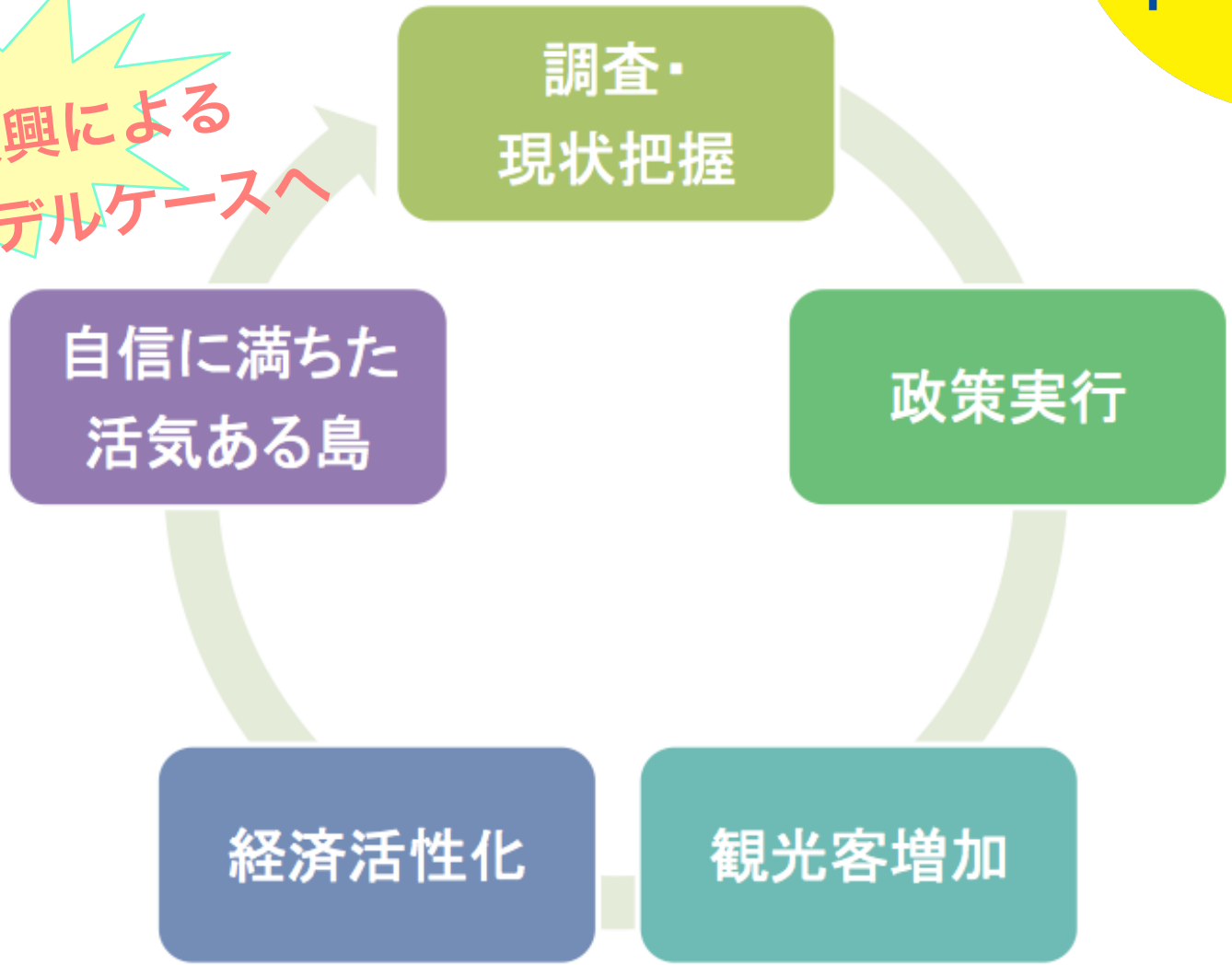
採用を検討しているプランの
需要を予測、検討できる

種子島の文化、産業、農業を体験する
家族旅行

島のあらゆる資源を結集して「観光の島」種子島へ

自然と共生する
スマート
エコアイランド
種子島

離島観光振興による
経済発展のモデルケースへ



4. 今後について
ーディスカッションー

議題

- これまでの発表内容に関して

- 今後の活動に関して
  - セミナーの開催頻度、場所
  - 連絡体制（メーリングリストの作成など）
  - 調査の内容に関する提案
  - 調査体制の確認
  - 視察